令和５年度　ふじみ野市立大井中学校　全国学力・学習状況調査の結果と考察

令和５年４月１８日実施

この学力調査は、**令和５年度の中学校３年生**を対象に実施したものです。したがって、学校全体の傾向を表すものではありません。

また、本分析・考察は全国（公立）及び県（公立）平均との比較をベースにしたものであり、一定の基準をもとにした優劣や、昨年度と比べた経年変化を表すものではありません。

グラフは、成果や課題を表す領域や相関関係があるものについて掲載しました。

下の表は国数英３科合わせての平均です。正答数、正答率ともに全国、県を上回っています。

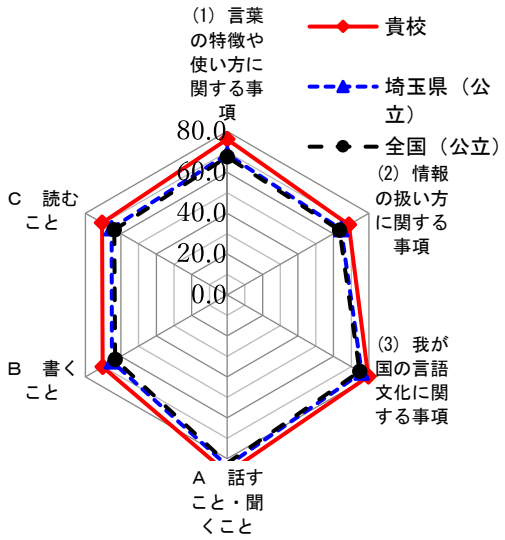
	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)
ふじみ野市立大井中学校	180	11.4 / 15	76
埼玉県（公立）	53,122	10.6 / 15	71
全国（公立）	892,738	10.5 / 15	69.8

国語は「情報の扱い方」に課題

右の表にある通り、すべての項目で全国・県平均を上回りました。

また、下の表にあるように正答率が最も低い問題でも５割を超える正答率でした。

これからの学習指導に当たっては、基本的な漢字の書き取りを大切にしつつ、様々な資料をもとに文章を解釈する授業を行い、多面的・多角的に読み解く思考力を育成できるように指導します。



国語で正答率が９０％を上回った問題　　正答率（%）

問題の概要	出題の趣旨	本校	埼玉	全国
インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる	91.7	88.6	87.5
「落胆する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	91.7	91.4	91.1

国語で正答率が最も低かった問題

問題の概要	出題の趣旨	本校	埼玉	全国
漢字を書く（おし量って）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	60.6	46.2	43.9

＜学習指導要領の内容の平均正答率の状況＞

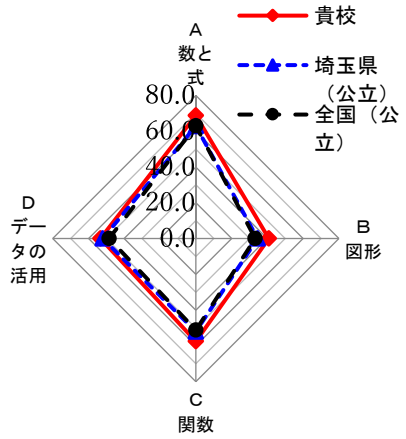
分類		区分	対象問題数(問)	平均正答率(%) 貴校	埼玉県（公立）	全国（公立）
全体			15	76	71	69.8
学習指導要領の内容	知識及び技能	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	2	76.1	68.8	67.5
		(2) 情報の扱い方に関する事項	2	68.6	64.3	63.4
		(3) 我が国の言語文化に関する事項	3	79.6	75.9	74.7
	思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	3	87.0	83.4	82.2
		B 書くこと	2	70.3	65.0	63.2
		C 読むこと	4	70.6	65.2	63.7
評価の観点		知識・技能	7	75.5	70.6	69.4
		思考・判断・表現	9	76.0	71.2	69.7
		主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式		選択式	7	76.8	73.9	73.1
		短答式	4	73.1	66.7	65.6
		記述式	4	76.9	70.2	68.0

数学は「図形の領域」に課題

右の表にある通り、すべての領域で全国・県平均を上回りました。

また、下の表にあるように正答率が最も低い問題でも全国・県平均を上回る正答率でした。

これからの学習指導に当たっては、読み取った情報を正しく記述する授業を続け、特に「図形」分野の、ある条件の下で成り立つ性質や関係をとらえ、それを数学的に表現することができるように指導します。



＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞

数学で正答率が９０％を上回った問題　　正答率（％）

問題の概要	出題の趣旨	本校	埼玉	全国
はじめの数が 11 のとき、はじめの数にかける数が2、足す数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	92.7	89.7	88.9

数学で正答率が最も低かった問題

問題の概要	出題の趣旨	本校	埼玉	全国
空間における平面が１つに決まる場合について、記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にない３点で決定されることをりかいしているか	37.4	31.6	30.4

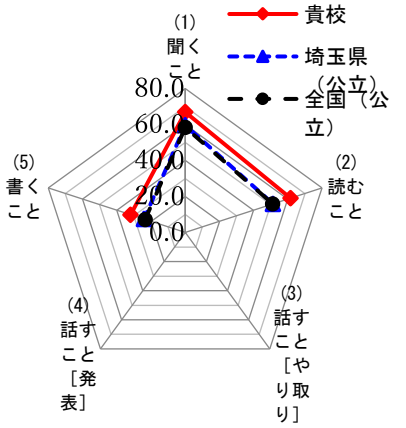
分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%)		
			貴校	埼玉県（公立）	全国（公立）
全体		15	57	52	51.0
学習指導要領の領域	A 数と式	5	68.8	62.9	63.0
	B 図形	3	40.8	38.5	38.2
	C 関数	4	57.5	52.0	51.0
	D データの活用	3	53.3	52.0	49.5
評価の観点	知識・技能	10	60.2	56.6	55.7
	思考・判断・表現	5	50.8	43.2	41.6
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	4	51.0	45.5	45.3
	短答式	6	66.4	64.0	62.6
	記述式	5	50.8	43.2	41.6

英語は「必要な情報を聞き取る」に課題

右の表にある通り、すべての領域で全国・県平均を上回りました。

下の表にあるように正答率が最も低い問題でも全国・県平均を上回る正答率でした。

これからの学習指導に当たっては、引き続き自分の考えを伝えあう言語活動を通して、外国語を使うことに慣れ、言語能力やコミュニケーション能力の向上に努めます。



＜学習指導要領の領域の平均正答率の状況＞

英語で正答率が８０％を上回った問題　　正答率（％）

問題の概要	出題の趣旨	本校	埼玉	全国
ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	85.6	78.7	79.0

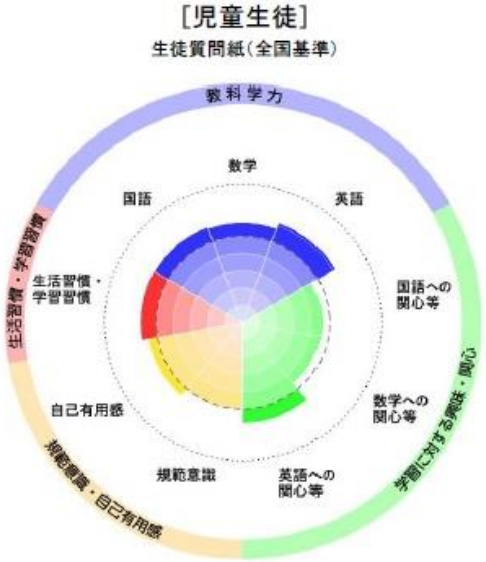
英語で正答率が最も低かった問題と全国・県平均を下回った問題

問題の概要	出題の趣旨	本校	埼玉	全国
学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを１つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	8.9	8.6	7.4
忘れ物に関する情報を得るために自動音声内容を聞き、最も適切な番号を選択する	日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ることができるか	60.6	63.4	61.1

分類	区分	対象問題数（問）	平均正答率(%)		
			貴校	埼玉県（公立）	全国（公立）
全体		17	55	49	45.9
学習指導要領の領域	(1) 聞くこと	6	66.9	59.6	58.4
	(2) 読むこと	6	61.6	51.4	51.2
	(3) 話すこと［やり取り］	0			
	(4) 話すこと［発表］	0			
	(5) 書くこと	5	31.9	24.1	23.4
評価の観点	知識・技能	9	61.2	52.1	51.5
	思考・判断・表現	8	47.4	39.7	38.8
	主体的に学習に取り組む態度	0			
問題形式	選択式	12	64.3	55.5	54.9
	短答式	3	40.7	36.4	30.1
	記述式	2	38.6	34.0	33.5

生徒質問紙による調査結果（全国基準）

生徒質問紙の調査結果が右のチャートにまとまっています。

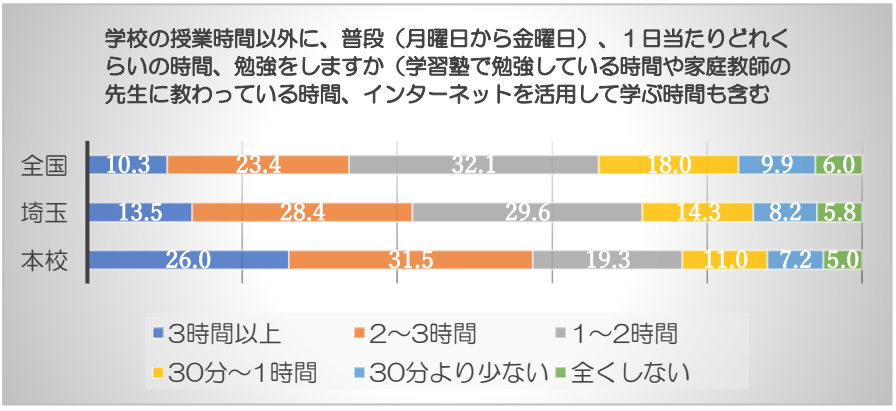


【教科】

これを見ると、「英語の勉強は好き」「英語の授業の内容はよく分かる」と感じている生徒が非常に多いことがわかります。一方、国語や数学は一定の学力はあるものの、これらの教科に対して関心をあまり感じていない生徒が多いことがわかります。分かりやすく、楽しみにしてもらえるような授業づくりを今後とも続けることで、生徒の関心を高めて参ります。

【生活習慣・学習習慣】

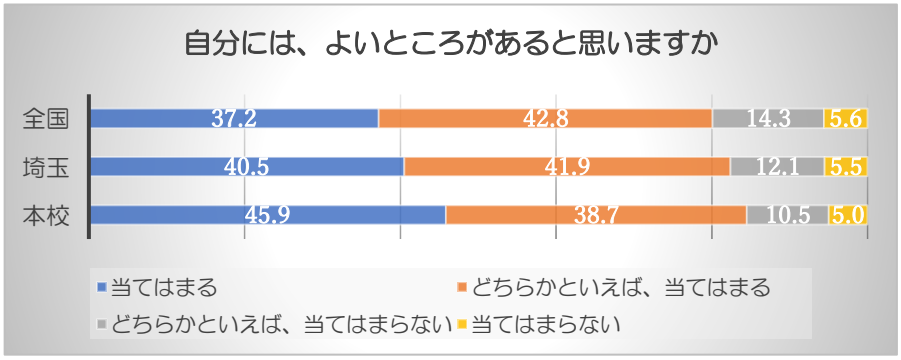
ほとんどの生徒が、毎日朝食を食べ、決まった時刻に起きるなど規則的に生活していることがわかります。また、「学校の授業以外に 1 日どれくらい勉強しますか」に対して、「1 時間以上勉強する」と答えた生徒が約 76%おり、毎日コツコツと勉強している様子が伺えます。

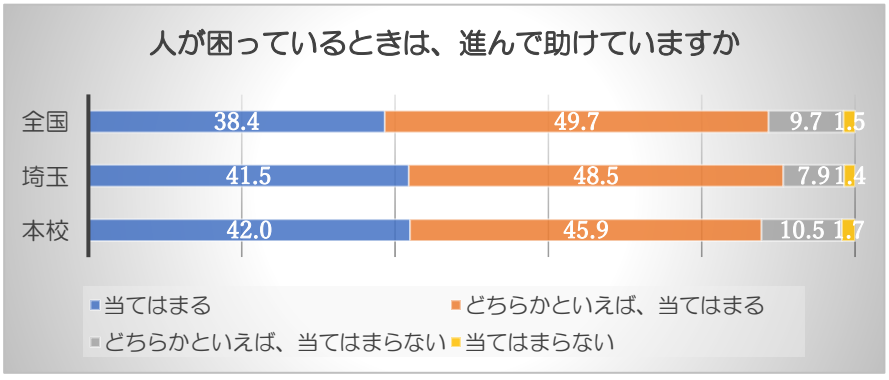


【自己有用感】

「自己有用感」とは誰かに必要とされた、人に喜んでもらえたなど、自分が有用だと思える感情のことです。

多くの生徒が「自分には良いところ」があり、先生もそれを認めてくれていると感じていることがわかりました。



【規範意識について】

「規範意識」とは社会のルールを守ろうとする意識のことです。「人を助ける協同」の意識を育むことで、居心地のよい学校づくりにこれからも努めてまいります。